

序 文

公共職業訓練施設における在職者を対象とする向上訓練はすでに10数年にわたる発展の歴史を持っている。その間に受講者の広がり、受講者を送り出す企業の広がりとともに、開設コースの多様化も進んできている。公共向上訓練の経験の蓄積も、様々な困難な諸問題も含めて、相当な量に達していると言えよう。

本報告は、そうした諸経験を踏まえて公共向上訓練の意義と方向性を問うたものである。その内容は、すでに当センター調査研究資料第53号で報告した「公共向上訓練に基礎的なものが求められている」という事実を受けて、「基礎」あるいは「技能」といった基本的な事柄を見直し、「とらえなおしとしての向上訓練」という見方を引き出している。この見方は向上訓練の意義を明らかにするうえで、またその計画と実践のうえで、指針となるものではないだろうか。

本報告が向上訓練の推進ならびにそのための各方面からの研究に少しでもお役にたてば、また様々な角度から御意見、御批判を賜われれば幸いです。

昭和60年5月

職業訓練研究センター所長

多賀谷 敏 夫

訓研調査研究資料 第61号

向上訓練と技能の基礎

発行 1985年5月

発行者 職業訓練研究センター

所長 多賀谷敏夫

〒229 神奈川県相模原市相原1960

電話 (0427)-61-9911

印刷 (有) 港栄印刷

横浜市保土ヶ谷区西谷914-1

電話 (045)-371-6800 (代)